

平成 30 年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月19日実施)	総合評価(4月4日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	・ハイレベルな文武両道により、高い学力と豊かな人間性を育む。	①学科改編に伴う普通科・スポーツ科学科の教育課程を精査し、検証を行う。 ②体育を特色としたさまざまな学習指導の取組みを行う。	①普通科では国語・数学・英語を充実させる。スポーツ科学科では専門的な内容の教育課程に基づいた授業を実施する。 ②豊かなスポーツライフの実現に向けて、日常的にスポーツに親しみ体力向上、健康増進に取り組む態度を育成する。	①充実した教育課程に基づき、実施できたか。 ②豊かなスポーツライフの実現に向けて、日常的にスポーツに親しみ体力向上、健康増進に取り組む態度を育成できたか。	①生徒による授業評価においては入学当初に比べると全体的にレベルは上がっていることがわかる。特に家庭学習においては2割程度増えていることから、学習に対する意識の向上がうかがえる。スポーツ科学科では専門的な内容の教育課程を編成することができた。 ②昨年に引き続き、ヘルスケアなどのアプリを活用して、日常的に健康増進に取り組んでいるかについてアンケートをとったところ昨年同様の10%であった。	①将来の目標を持たせつつ日々の課題や週末課題を課すことにより、毎日の授業を充実させ、さらに家庭学習の定着を図る。 ②積極的な活用について啓発することが課題である。	・家庭学習時間が少ないようなので各教科で適切に宿題を課すと良い。 ・生徒による授業評価アンケート結果分析を適切に行うことで新たな課題などに気付くことができる。比較したグラフを作成すると良い。 ・塾に行っている生徒は金銭的な負担も大きいためか多くはないようなので朝学習や2学年で実施した英検全員受検を良い試みであると思う。	・学習に対する意識が向上してきた。しかし、家庭学習の定着についてはまだまだ課題が残る。 ・スポーツ科学科では専門的な教育を施すことができていない。 ・豊かなスポーツライフの実現に向けてスポーツに親しむ生徒が増えていることを期待したが昨年と大きく変わってはいなかった。競技スポーツだけではなくヨガ同好会のような日常的な健康増進に係る部活動などをもっと活用すると良いかと思う。	・各教科で適宜課題を課したり、学年集会やHRを利用して家庭学習時間を確保するように促す。 ・日常的に健康増進に努めるよう、長期休業などに際して啓発を行う。
2 生徒指導・支援	・部活動や行事に主体的に取り組む、自ら誇りを持ってのびやかで規律正しい生活を送る校風を維持する。	①規律正しい生活を維持できるよう指導、支援する。 ②部活動・行事における教育力、生徒の人間性、主体性の伸長を図る。	①HR指導、登下校指導や校外指導など教職員全員で、マナーやモラルの向上を指導、助言する。 ②厳しくも温かい生徒指導を実施するとともに、いじめ防止に関しては、日ごろから、素早く柔軟に対応する。 ③入部率75%以上を目標に入部率の向上に努める。	①生徒への指導が徹底できたか。生徒の規律性は保たれているか。 ②厳しくも温かい生徒指導を実施できたか、日ごろからいじめ防止に対して、素早く柔軟に対応できたか。 ③入部率75%以上を達成できたか。	①交通安全、公共マナー、基本的な生活習慣の向上に向けて全職員で粘り強く指導ができた。 ②安心・安全な学校生活を送れるよう、相談体制や支援体制の強化を図った。 ③入部率は67%であった。	①学校や社会のルールの意味を生徒が主体的に理解し、その場に応じて適切な判断や行動ができる力を育てる。 ②ケース会議や教育相談についての校内体制を整備すると共に、SCやSSWとの連携を強化していく。 ③1年生の入部時に、積極的に入部を促せるように担任等と連携していく。	・以前の北高と比較すると生徒が落ち着いており最高に良くなっている。卒業式などを見ても素晴らしさを感じる。しかし、元気もなくなっているように思われる。 ・他地域と比較すると自転車マナーは良いと思うが、登校時の風景を見ているとたくさんの自転車が学校に入るの危険さは感じる。 ・入部率は良い。ヨガ同好会のような新しい部活も良い。	・教職員全体で厳しくも温かい生徒指導を目指し取組めた。 ・交通安全指導では自転車通学のマナーは向上しているが並走や時間に追われた登校でスピードの出すぎなどが危険である。 ・入部率75%は達成できなかった。多くの生徒が部活動に入部するよう積極的に促すようにこころがける。	・正門指導時や校外指導に際して交通安全に努めるよう声かけを行う。また、早めの行動を意識するよう促す。 ・クラス担任などと連携を取りながら部活動への積極的な参加を促す。

3	進路指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> ・目標を持ち努力し続けることで一つ上の進路実現を目指す生徒を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①早期の目標設定、一つ上の進路実現を目指す進路指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①自習室の活用を促進させるなど第一希望を目指す支援を行う。 ②ガイダンスの充実により大学進学率を増やす。 ③ガイダンスの充実によりセンター試験受験者数を増やす。 ④体育系大学の指定校推薦枠を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ①妥協させるのではなく第一希望の進路先をめざさせる支援ができたか。 ②ガイダンス等で生徒に具体的な目標を持たせることができたか。 ③大学進学率を増やすことができたか。 ④体育系大学の指定校推薦枠を増やすことができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①②ガイダンス等で生徒に具体的な目標を持たせ、第一希望の進路先をめざせる支援ができた。 ③体育系の大学進学率を増やすことができた。 ④体育系大学の指定校推薦枠を1大学増やすことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒の意識もより上の大学を目指す傾向が出てきており、一般受験者が増加してきているので一般受験のサポートより充実させて行きたい。 ②体育大学系の進学率が上がってきている傾向にあるので、より一層進学実績をつくり、指定校推薦枠を確保できるように努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一般受験で大学進学へチャレンジする生徒が増えてきた。一つ上を目指す指導が功を奏している。私立大学は以前よりも門戸を縮小しているので受験指導の際には対策を練ってあたると良い。 ・大学進学だけではなくその先にある就職の話から進学指導へアプローチしてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第一希望の進路先を目指す支援ができた。一般受験で妥協せず頑張れる生徒も増えてきた。 ・体育大学の進学希望者は増えてきている。体育系大学の指定校推薦枠1大学増やすことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自習室の活用や家庭学習時間の確保、長期休業中に実施される特別講座などを積極的に利用しながら引き続き第一希望の進路を目指す指導に努める。
4	地域等との協働	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の教育力を積極的に活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①厚木北高校の情報を積極的に中学生、保護者、地域に向けて発信する。 ②地域と協働したグローバルな取り組みを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校説明会を増やすことで学校の情報を中学生、保護者へ浸透させる。 ②HPをリニューアルし、適宜本校の情報を発信する。 ③厚木市など地域と協働して、留学生の受け入れ、国際交流等を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①十分な受検者数を確保できたか。 ②適宜HPの更新を実施できたか。 ③国際交流の取組を実施できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①第1回目の学校説明会は夏休み後に実施されたために参加人数が少なかった。第3回目の学校説明会は事前に中学校訪問を実施したためか参加者が増加した。 ②HPのリニューアルは次年度に持ち越したが年間通じて多くの北高情報を発信できた。 ③1学年に留学生を1名受け入れた。国際交流事業で3名ニュージージーランドへ短期留学を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ①次年度の第1回の学校説明会の実施時期を夏季休業期間で実施する。次年度も継続して中学校訪問を実施し広報に努める。 ②CMSを活用しHPをリニューアルする。多くの人が見やすいHPにし時期を逃さず情報発信に努める。 ③留学の情報等を生徒向けに発信し興味のある生徒が活用できるように努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少子化に伴い、大学側も中学校訪問を行っている時代。学校説明会や中学校訪問、HPなどを利用しながら北高の良さを発信していることと良い。 ・留学生を受け入れ、留学に興味を持っている生徒が出てきたのは良いこと。留学することで日本や地域の素晴らしさを改めて感じることに繋がる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3回実施した学校説明会や中学校訪問、HPを利用した情報発信をすることで受検者数を確保できた。 ・HPは更新回数を増やすことで北高のリアルな情報発信に努めることができた。 ・留学生を1名受け入れた。生徒間でも異文化交流につながった。留学情報を発信することで興味のある生徒が3名短期留学を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校説明会や中学校訪問、HPを利用しながら引き続き学校広報に努める。 ・CMSへの移行を行いリアルタイムで北高の情報を発信する。 ・興味のある生徒が留学の情報が得られるよう広報に努める。
5	学校管理 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒第一に安心安全かつ快適な教育環境整備を進める。 ②チームで学校を運営する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学科改編に伴う施設設備等の整備計画に基づいた設備改修を実施する。 ②チームとしての学校運営を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学科改編に伴いよりハイレベルな学習環境（視聴覚教室等）のICT設備を充実させる。 ②特色推進・学びづくりWGを設置し厚木北高校の未来について検討された内容について、グループ、学年、教科、部活動顧問等、すべてチームとして情報を共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学科改編に伴い、よりハイレベルな学習環境（視聴覚教室等）のICT整備を充実できたか。 ②特色推進・学びづくりWG内で検討された課題についてグループ、学年、教科、部活動顧問等、チームとして情報を共有することができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学科改編に伴い、共用教室5か所およびスポーツ総合演習室にプロジェクターを設置した。 ②特色推進・学びづくりWGを7回開催し、厚木北高等学校の将来あるべき人物像について考え、その内容について、職員会議で発表することで、学校全体に情報を共有することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①ICT機器活用を促すマニュアル作成、利用しやすい環境整備が必要である。 ②来年度は2年目に入るのでカリキュラムに落とし込むことを想定しながら、教育の方法論について検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板などICTを導入することで学びも変わってきた。これらを適切に活用することで深い学びにつながる。 ・特色推進学び作りWGで話し合っているような次世代の北高生像を話し合うことは良い試み。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器の活用を促すべく共用教室に5か所、スポーツ総合演習室にプロジェクターを設置した。環境整備はできたが今後の活用方法で学びのあり方が大きく変わることになる。使用方法の研究に努める必要があると考える。 ・特色推進学び作りWGで将来の北高が育成すべき人物像を考えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新規に導入したICT機器を利用した適切な授業展開などを模索し、校内啓発に努める。 ・今年度は理想を語る方法で学びのあり方が大きく変わることになる。次年度は具体的な教育課程編成などに移っていくことを目指す。